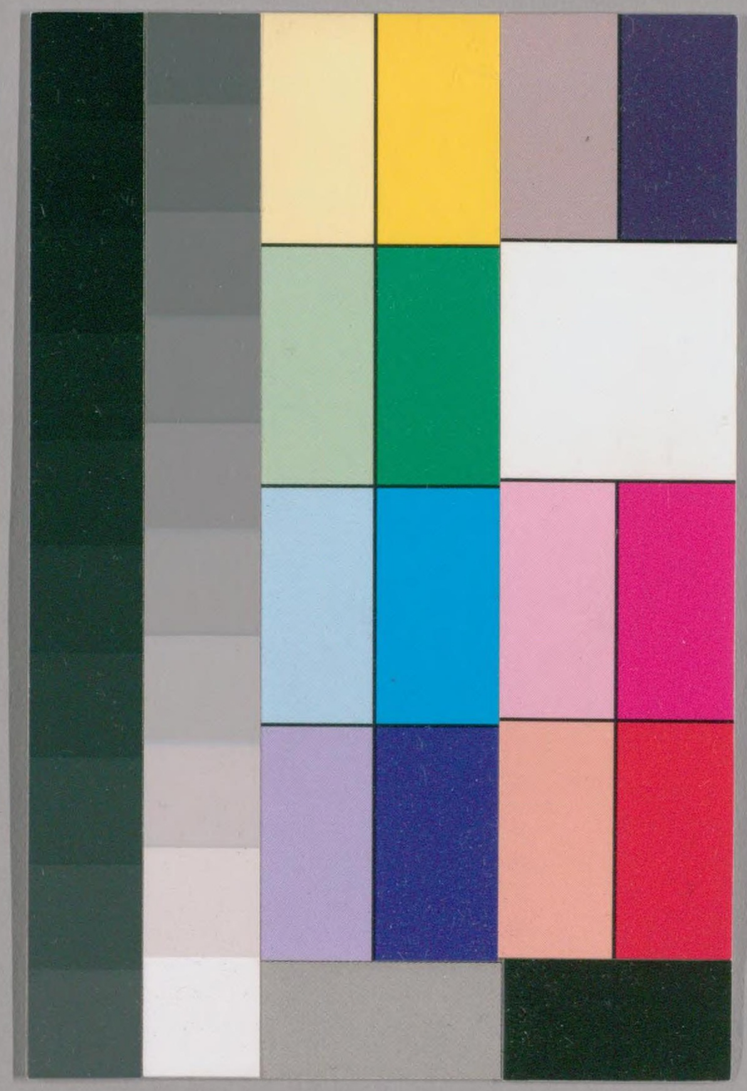

掌中十三經註疏

珍

123.
Sy961

国立国会図書館蔵書

掌中十三經註疏

十三経ノウチニ納タル易書詩左傳公羊穀梁
礼記周礼儀礼爾雅孝経論語孟子ノ諸書
ヲ蔵スル人先此書ニヨリテ事ヲサクラバ本書ヲ見
ルニ速ヤカナルヘク亦本書ノ目録ヲ出シ作者ヲアラ
ハシ悉ク其書ノ起ヨリ全体ノ大旨ヲ註シ委シ

大坂書林　宣英堂梓

国立国会
29.7.22
図書

336648

123.Sy961

十三經之三禮四經其巻帙殆乎汗牛充棟手未嘗繙焉者懵乎昧乎雖宿儒先生至於篇次及傳註姓名不能卒然數之蓋亦其志在闡微擢隽猶九方歅得駿而畧玄黄一馬猶爾況是重載豈可無其

ガラス使用

輔二此ノ書一弁テ二其ノ指ー趣ヲ一示ス二諸ヲ掌中ニ一則玄黄ハ不レ啻嚮フノ之惘ー乎眛ー乎鼓二舞ス其ノ心一庶ー幾クハ亦能ク闡レキ微ヲ擢レンデ雋ヲ不乙唯ヌ過ニ煠ー鯖ヲ一而大ー嚼偽ヲ下知ニ其ノ味ヲ一者上而已甲迺撰者有レル大ニ造ー乎世ニ一也ナリ

長城邊積識

掌中十三經註疏

總叙

古昔易詩書禮樂春秋ヲ六經ト稱セシガ、樂經亡ビテ後漢ヨリ以來ノ儒者但五經ヲ傳フ、唐ノ時其禮ヲ三ニワカツ、周禮儀禮禮記コレナリ、又春秋ヲ三傳ニワカツ、左氏傳公羊傳穀梁傳コレナリ、ソノ後周禮儀礼〻記左傳公羊傳穀梁傳易書詩コレヲ九經ト目シ、又公羊穀梁周礼

ガラス使用

儀礼孝経論語爾雅ヲ七經ト称ス、十三経ト云名ハ明ノハジメニ立タルヨシ、顧（コ）炎（エン）武（ブ）カ日知録ニシルセリ、十三経註疏ノ舊板ヲ嘉靖版トイフ、コレハ成化年中ニ丘（キウ）瓊（ケイ）山（ザン）カ著ハセル大學衍義補ノ説ニ、十三経註疏ノ版本福州ノ府（フ）學（ガク）ニ存ストイヘルモノコレナリ、次ニ萬暦版次ニ汲（キウ）古（コ）板ナリ、汲古閣版ハ常（ジヤウ）熟（ジユク）ノ毛（モウ）晋（シン）ガ家ニ刻スルトコロノ本ナリ、崇禎年間ノ鏤（ラウ）本ニテ錢（セン）牧（ボク）齋（サイ）コレニ序シテ専勤較（カウ）勘（カン）精良鋟（シン）板トイヘリ、ノチ明末ノ乱ニ逢テ版ニ漫（マン）漶（クワン）アリ、清ノ席（セキ）世（セイ）宣（セン）善本ヲ購（アガナ）ヒ得テ遂一ニ校（カウ）讎（シウ）シ、工ヲ倩（ヤトフ）テ補刻ス、コノ本ニハ乾隆四十年二月朔日虞（グ）山（サン）ノ席世宣ノ序アリ、近頃嘉慶三年汲古閣原本ニヨツテ重鐫（セン）シタル本ヲ嘉慶版ト称ス、コレニハ張（チヤウ）鳳（ホウ）翽（カイ）ノ序アリ、

周易

伏羲氏始テ八卦ヲ畫シテ神明ノ徳ニ通シ萬

物ノ情ヲ類ス、マタコレヲ重子テ六十四卦トス、三代ニ及テ三易トナル、夏ニハ連山トイヒ、殷ニハ歸（キ）藏（サウ）ト云、周ニハ周易トイフ文王彖ヲツクリ、周公マタ爻（カウ）ノ辞ヲ作リ孔子彖（タン）ノ傳象ノ傳繫（ケイ）辞文言序卦説卦雜卦ヲ作ル、コレヲ十翼（ヨク）ト謂フ、子夏ニ授テ相傳セリ、秦ノ始皇帝天下ノ書ヲ焚（ヤキ）タルトキ、周易ハ卜筮（ボクセイ）ノ書ト云ヲ以テ存スルコトヲ得テ、唯説卦三篇ヲ失ヒタレトモ、後ニ河間ノ女子コレヲ得タリ、漢ノ初メ易ヲ傳フル者田何アリ、卦（ケイ）象（シヤウ）爻（カウ）彖（タン）ト文言説卦等ト離レテ十二篇トナル、説者自（ラ）章句ヲナセリ、コレ易ノ本經ナリ、魏ノ代ニ王肅（シユク）王弼（ヒツ）並ビテコレカ註ヲ作リ、唐ニ至テ孔穎（エイ）達（タツ）マタコレカ正義ヲ作レリ

尚書

孔子墳（フン）典（テン）ヲ討（タウ）論（ロン）シタマフニ、唐（タウ）虞（ク）ヨリ周ノ世

ガラス使用

ニ訖（イタ）ルマデ、典（テン）謨（ボ）誥（カウ）訓誓（セイ）命（メイ）ノ文凡百篇ニシテ、帝王ノ制坦然トシテ明白ナリ、三千ノ弟子並（ナラビ）ニ其義ヲ受ク其上古ノ書ナルヲ以テ故ニ尚書ト名ツク、始皇書ヲ焚（ヤキ）儒ヲ坑（アナ）ニスルニ及テ、天下ノ學者難ヲ逃（ノガ）レテ解散スルトキ、孔氏ノ孫其家書ヲ屋（オク）壁（ヘキ）ニ藏セシ故、コノ書世ニ傳ハルコト罕（マレ）ナリシニ、漢興ツテ濟（セイ）南（ナン）ノ伏（フク）勝（シヤウ）ト云モノ口（クチ）ヅカラ此書ヲ人ニ傳ヘ授（サヅ）ケタレトモ、伏勝年九十餘ナルユヱ帝晁（チヤウ）錯（シヤク）ニ詔シテ伏勝カ家ニ徃テ此書ヲ傳授セシメタマフニ、伏勝老テ正シク言フコトアタハス曉（サト）リガタキコト多キユヱ、彼カ女ニ聞トラセテ晁錯コレヲ傳ヘウケタリ、其後魯ノ恭（ケウ）王ソノ居ヲ廣メシカ為ニ、孔子ノ舊宅ヲ壞（コボ）チタルトキ、ソノ壁（カベ）ノ中ヨリ古文尚書論語孝經等ヲ得タレドモ、皆イニシヘノ科（クワ）斗（ト）ノ文字ニシテ、時ノ人讀コトヲ得サリシユヱ、悉クソノ書ヲ孔氏

ガラス使用

ノ孫ニ還シタマヘリ、後漢武帝孔安國ニ命シテ、ソノ傳義ヲ作ラシメテ、五十八篇トス、コヽニオイテ古文今文ノワカチアリ、始メ伏勝カクチヅカラ傳ヘシ二十八篇ニ、河内ノ女子カ秦誓一篇ヲ得テ献シタルヲ合セテ、二十九篇トスルモノ、コレヲ今文ト云、伏勝ナラビニ傳ヲツクリテ、同郡ノ張生ニ授ケテヨリ世〻ニツタハレリ、又孔安國カ撰定セシ古文ハ、後漢ノ賈逵コレガ為ニ訓

ヲ作リ、馬融傳ヲ作リ、鄭玄マタコレカ註ヲ為レ𪜈、傳ルトコロ唯二十九篇、又雜ユルニ今文ヲ以テシテ、孔安國カ舊本ニアラズ、東晋ニ至テ、梅賾始テ安國カ傳ヲ渇テコレヲ奏ス、時ニマタ舜典ノ一篇ヲ闕ク、齊ノ建武年中姚方興大航頭ニオイテソノ書ヲエテ奏上ス、馬鄭カ註スルトコロニ比スレハ二十八字多シ、コヽニ於テ始テ國學ニ列ス、唐ノ初メ孔頴達等コレガ疏義ヲツクリ天寶

三載ニ至テ、衛包ニ詔シテ古文ヲ今文トス今ノツタフルトコロハ、天宝ニ定ル所ノ本ナリ

毛詩

イニシヘ詩ヲ采ルノ官アリタルハ、王者國ミノ風俗ヲ観、得失ヲ知テミヅカラ考ヘ正サンガタメナリ、孔子純ラ周ノ詩ヲトリタマヒ、上ハ殷ニ下ハ魯ニトリ、古詩三千餘篇ノ中ニテ重複ヲ去リ、ソノ礼義ニ施スベキモノヲ取リテ、三百五篇ト定メタマヘリ、コノ書秦ノ世ニ焚レザルモノハ、諷誦シテ書ニシルサヽリシユヘナリ、初メ孔子詩ヲ以テト商ニ授ケタマヒ、ト商魯人曽申ニ授ケシヨリ、ツタヘノヘテ魯人毛亨ニイタリシカハ、毛亨詁訓傳ヲ作リテ趙國ノ毛萇ニサヅク、時ノ人此ニ人ヲ大小毛公ト號シ、コノ書ヲ毛詩トイヘリ、後漢ノ鄭玄毛詩ノ箋ヲツクリテ歴代是ヲツタヘ唐ノ孔頴達太尉長孫無忌等トヽモ

ガラス使用

二毛詩ヲ刊定ス

周禮

漢ノ時季氏ナルモノアリ、周官ノ書ヲ得タリ、周官ハ、周公ノ制スルトコロノ官政ノ法ナリ、コレヲ河間ノ献王ニタテマツル、ソノ書ヒトリ冬官ノ一篇ヲ缺クユヱ、献王千金ヲ以テ購（アカナ）ハントスレ𪜈、ソノ冬官ノ一篇ヲ得ザルユヱ、遂（ツヒ）ニ考工記ヲ取テ以テソノ處ニオギナヒアハセテ、六篇トナシテ是ヲ帝ニ奏ス、王莽（マウ）カ時ニイタツテ、劉歆（リウキン）ハジメテ博士ヲオイテ以テ世ニ行フ、河南ノ緱（カウ）氏オヨビ杜子春、業ヲ劉歆（リウキン）ニウクルニヨツテ、コノ書ヲ教授ス、コノ後馬融（バユウ）周官傳ヲツクツテ鄭玄ニ授ク、鄭玄周官ノ註ヲ作レリ、唐ノ賈公彦（カカウケン）ニ至テ疏（ソ）ヲ撰シテ、鄭玄カ學ヲ發揮（ハツキ）ス

儀禮

先秦古禮ノ書ニテ、漢儒周公ノ作トス、儀礼

ハ禮ノ根本、禮記ハソノ枝葉ナリ、儀礼ニハ冠礼アリ、礼記ニハ冠義アリ、儀礼ニハ昏礼アリ、礼記ニハ昏義アリ、燕射ノ礼ニイタルマテ皆然ラザルコトナシ、唯コレ儀礼ニハ士相見ノ礼アリ、礼記ニハ却ツテ士相見ノ義ナシ、後来劉原甫補フテ一篇ヲナス、賈公彦疏ヲ撰ズルニ、齊ノ黄慶隋ノ李孟悊ガ疏義ニモトヅキ、刪訂シテ書ヲナセリ

禮記

禮記ハスナハチイハユル小戴礼ナリ、漢ノハジメ河間ノ献王マタ孔子ノ弟子オヨビ後ノ學者ノ記スルトコロ一百三十一篇ヲ得テコレヲ献ス時ニマタコレヲ傳フルモノナシ、劉向經籍ヲ考較スルニイタツテ、一百三十篇ヲ得タリ、劉向ヨツテ次第シテコレヲ叙ス、マタ明堂陰陽記三十三篇孔子三朝記七篇、王氏史氏記二十一篇、樂記二十三篇

ヲ瀉テ凡テ五種合セテ二百十四篇ヲ瀉タリ、戴徳ソノ煩重（ハンチヤウ）ヲ刪（ケヅ）リ、合セテコレヲ記シテ八十五篇トス、コレヲ大戴禮トイフ、戴聖（タイセイ）マタ大戴ノ書ヲ刪リ、四十六篇トシテコレヲ小戴記トイフ、漢ノ末ニ馬融遂ニ小戴ノ學ヲツタフ、融マタ月令一篇、明堂位一篇、樂記一篇ヲ足（タ）シアハセテ四十九篇トス、今ノ礼記コレナリ、鄭玄業（ギヤウ）ヲ馬融ニウクルユエ、コレガ註ヲツクルニ、ソノ義疏ヲツクルモノ甚タヾシ、唯皇甫侃（カン）熊安生（ユウアンセイ）ノミ世ニ見（アラ）ハル、唐ノ孔穎達正義ヲ撰スルニ、スナハチ皇氏ニ据（ヨ）リ、ソノ足ラザルヿアルハ熊氏ヲ以テ補ヘリ

爾雅

爾雅ノ釋古ハ周公ノ書ニテ、外ノ篇ドモハ孔子子夏叔孫（シユクソン）通（ツウ）ナドノ増補セラレタルモノト、世ニイヒツタヘタレド、漢志ニ爾雅ヲ撰セシ人ノ名ヲアラハサズ、晋ノ郭（クワク）璞（ハク）カ序ニモ、マタタヾ中古ニ

ガラス使用

興（オコ）リ漢氏ニサカンナルノミト稱ス、シカルニ陸（リク）徳明（トクメイ）ノ經典釋文ニ、始テ釋詁（シヤクコ）ヲ周公ノ作トス、ソノ言ニイハク周公禮ヲ制シテモツテ天下ヲミチビキ、爾雅一篇ヲ著（アラハ）シテ以テソノ義ヲ釋ス、今ノ俗ツタフル所ノ三篇、アルヒハ孔子ノ増トコロトイヒ、或ハ子夏ノ益トコロトイヒ、アルヒハ叔孫通ノ補フトコロトイヒ、或ハ沛郡（ハイグン）ノ梁文ガ考フルトコロトイヘドモ、イヅレモ諸家ノ口傳ニテヨク明ム

ルコトナシトイヘリ、此書ノ註モ舊ク劉歆（リウキン）樊光（ハンクワウ）李巡（リジユン）孫炎（ソンエン）ナドノ學アリタレド、今タヾ郭璞ガ註ノミ世ニオコナハル、疏モマタ孫炎高璉（カウレン）ナドガ義疏アレトモ、ソノ淺畧ナルヲ以テ、宋ノ代ニ邢昺（ケイヘイ）杜（ト）鎬（カウ）等ニ命ジテ、別ニ疏ヲ作ラシム、今傳フル所ノモノコレナリ、モトコノ書ハ詩書ヲ讀ムニ言語稱謂宮室器服草木蟲魚鳥獸ノ命（ナヅ）ルトコロオナジカラズシテ、人ノ識ルコト能ハザルトコロノ

モノアルユヱ、コレガ訓詁ヲナシタル書ナリ

春秋左氏傳

イニシヘノ王者世（ヨ）史官アリテソノ君ノ擧動（キヨダウ）ヲカナラズ書記ス、左史ハ言（コト）ヲシルシ右史ハ事（ワザ）ヲ記ス、ソノ事（ワザ）ヲ春秋トシ、ソノ言ヲ尚書トス、帝王モコレニ同ジ周室衰ヘテ王迹熄（セキヤム）タレドモ、魯國ハイニシヘ周公ノ封ゼラレタマヒシ國ナルユヱ、昔ノ遺制（イセイ）ナホ存スルヲ以テ、孔子ソノ舊史ニ因テ春秋ヲ作リタマヘリ、シカレトモ褒（ハウ）諱（キ）貶（ヘン）損（ソン）スルトコロ、具ニ書ベカラサルニヨッテ、皆弟子ニ口授シタマヘルユヱ、弟子退（シリゾイ）テソノ説ヲ異ニスルコトヾモアリ、左丘明ソノ真ヲ失ハンコトヲ恐レテ、スナハチコレガ傳ヲツクリ、孔子空言（クウゲン）ヲ以テ経ヲ就（ナ）シタマハザルコトヲ明セリ、シカルニ左氏傳ヒサシク世ニ埋モレタリシガ、漢ノハジメニ張蒼（チヤウサウ）カ家ヨリ出タレドツタフルモノナカリシニ、文帝ノ時ニ至テ、梁ノ

ガラス使用

大傳賈誼訓詁ヲツクリテ趙人貫公ニサヅク、ソノヽチ建武年中ニイタツテ尚書令韓歆左傳ガ國學ニ立ント欲シテ、ソノ議イマダ行ハレズ時ニ陳元最左傳ニ明ラカナリケレバ、上書シテコノコトヲ訟フ、コヽニオイテ魏郡ノ李封ヲ以テ左氏博士トス、ソレヨリ諸儒ノ左傳ヲツタフルモノ甚衆シ、永平中ヨク左傳ヲ為ムルモノ高第ニ擢デ、講郎トナルニイタル、ソノ後賈逵服虔ナラビニ訓解ヲ為リ、魏ニイタツテ遂ニ世ニ行ハル、晋ノ時征南将軍杜預、マタ経傳集解ヲツクリテ國學ニ立ツ、今ノ杜註コレナリ、シカレトモソノコロモツハラ服虔カ註ヲツタヘタルニ、隋ノ代ニ至テ杜氏ノ註サカンニ行ハレテ、服虔カ註ヲ傳フルモノ微ナクナリタリ、唐ニ春秋正義アリ、スナハチ左傳ニ従ツテ孔穎達ノ撰スル所タリ、杜預モツハラ左傳ヲ治メ、シヨリ後、沈文阿蘇覺劉

炫カ輩ミナ杜氏ノ説ニ據レルヲ、頴達劉炫カ学ニ据テコレヲ損益シ、長孫無忌等マタ〻損益シテソノ書スナハチ定マル、今ノ註疏コレナリ

論語

孔子既ニ六經ヲ叙タマヒテ、洙泗ノ上ニ講シタマフニ門徒三千人ニシテ達スルモノ七十人、孔子時人弟子ニ應荅シ、及ヒ弟子相トモニ言テ、孔子ニ接聞スルノ語トモヲ、當時弟子オノ〻記スルトコロアリ、孔子既ニ沒シタマヒテ後、門人相トモニ其語ヲ輯メテ論纂ス、故ニコノ書ヲ論語トイヘリ漢ノハシメニ齊論魯論ノ説アリ、齊論二十二篇魯論二十篇ナリ、安昌侯張禹モト魯論ヲサヅカリシガ、晩ニ齊論ヲ講シ、ソノヽチ遂ニ合セテコレヲ考ヘ、ソノ煩惑ヲ刪リ、齊論ノ中問王知道ノ二篇ヲ除キ去リ、魯論二十篇ニ從テ定本トス、コレヲ張侯論ト號シテ當世コレヲ重ンス、周氏包氏

ガラス使用

コレガ章句ヲ為（ツク）リ、馬融マタコレカ訓ヲツクル、又古論語アリ古文尚書ト同シク出、章句煩（ハン）省（セイ）魯論ト異ナラス唯子張ノ篇ヲ分ツテ二篇トス、故ニ二十一篇アリ、孔安國コレカ傳ヲツクル、漢ノスヱニ鄭玄張侯論ヲモツテ本トシ齊論古論ヲ参攷シテコレカ註ヲツクリ、魏ノ司空陳（チン）羣（クン）太常王肅（シユク）博士周生烈（レツ）ミナ義説ヲツクリ、吏部尚書何晏（カアン）マタ集解ヲツクレリ、コレヨリノチ諸儒多クコ

レガ註ヲツクリテ齊論遂（ツヒ）ニ亡フ、古論ハ先ニ師説ナシ、梁（リヤウ）陳（チン）ノトキタヾ鄭玄何晏コレヲ國學ニ立ツ、梁ノ皇侃（クワウカン）、論語ノ疏ヲ撰ス、凡テ十三家ノ說ヲ引テ此書ヲナセリ

孝經

孔子スデニ六経ヲ叙シ、復（マタ）孝経ヲ作リタマヘリ、秦始皇書ヲ焚ニアフテ、河間ノ人顔（ガン）芝（シ）ガ藏ストコロトナル、漢ノハジメ子貞コレヲ出シテ世ニ傳ヘ

ガラス使用

タリ、スベテ十八章マタ古文孝経アリ、古文尚書トオナシク出、孔安國コレガ傳ヲツクル、劉向経籍ヲ典挍スルニイタツテ、顔カ本ヲモツテ古文ニ比シ、ソノ繁惑ヲ除ク、鄭衆馬融コレガ註ヲツクル、ノチ安國カ本梁ノ乱ニホロビ、陳及ヒ周齊只鄭氏ノ本ヲツタフ、隋ニ至テ秘書監王劭京師ニオイテ、孔傳ヲ訪得シ河間ノ劉炫ニ送リ至ス、炫ヨツテソノ得喪ノコトヲ序シ、ソノ議

疏ヲノベテ人ニ講セシガ、ソノコト漸々ニ朝廷ニキコエシカバ、遂ニ著ハレテ鄭註トナラビタテリ、シカレドモ時ノ儒者ドモミナ劉炫カ偽作ナルカトウタガヒ、孔安國カ舊本ニアラズトス、モトヨリ孝経ハ天子ノ秘府ニナカリシユエ、儒家マタ鄭註ヲモ疑ヒシガ、ソノ後唐明皇ミヅカラ孝経ノ註ヲ為リ、孔鄭ノ舊義ヲマジヘ、マタ元行冲ニ命ジ疏ヲ造ラシメテ學官ニ授ケラル、宋ノ延平中邢昺

ガラス使用

行冲ガ疏ヲ取リ、正義ヲ刪定（サンヂヤウ）シテ、コレヲ行フ、今ノ註疏コレナリ

春秋公羊傳

春秋穀梁傳

公羊（クヨウ）高（カウ）ハ齊ノ人ニシテ子夏ノ弟子ナリ、穀梁赤（コクリヤウセキ）ハ魯ノ人ニテコレモ子夏ノ弟子ナリ、春秋モト孔子弟子ニ口授シタマフトコロナルヲ、左丘明其真ヲ失ハンコトヲ恐レテ、コレガ傳ヲツクリタレトモ、末世ニオヨビテ口説流行セシユヘ、公羊（クヨウ）穀梁（コクリヤウ）鄒夾（スウケウ）ナド家ミノ傳アリ、漢ノハジメニ四家ノ傳ナラビニ行ハレシガ、王莽ガ乱ニ鄒夾（スウケウ）二氏ノ傳ハホロビタリ、漢ノ末ニ何休（カキウ）公羊解詁ヲツクレリ、穀梁傳ハ荀卿（シユンケイ）申公ヨリ蔡（サイ）千秋江（カウ）翁ニイタルマテ五傳ス、漢ノ宣帝コレヲ好ムニ至テ、遂ニサカムニ行ハル、晋ノトキ杜預経傳集解ヲツクリテ後穀梁ノ范甯（ハンネイ）カ註、公羊ノ何休ガ註、左氏ノ服虔（フクケン）杜預（トヨ）ガ註トモニ國學ニ

立、隋ニイタツテ公羊穀梁浸（ヤウヤ）ク微ナリ、公羊傳ノ疏アルヒハイフ徐（シヨ）彦（ケン）撰スト、宋ノトキ邢昺詔（ミコトノリ）ヲ奉シテコレヲ正ス、穀梁傳ノ疏楊（ヨウ）勛（イン）撰トス、コヽニオイテ春秋左氏公穀三傳ヲ列シテ三經トス

孟子

孟軻儒道ヲモツテ諸侯ニアソビ、斯民ヲ濟（スク）ハンコトヲ思フ、シカレトモ肎（アヘ）テ尺ヲ枉（マゲ）尋ヲ直クセス、時君ミナコレヲ迂（ウ）遠（エン）ニシテ、事情ニ濶レリトシテ、ヨクソノ説ヲ聽（キヽ）納（イル）ル人ナシ、コヽニオイテ退イテ公孫（ソン）丑（チウ）萬章カ徒ト難（ナン）疑（ギ）荅問シテ、書七篇ヲアラハス、秦書ヲ焚シトキソノ書子（シ）ト號スルヲ以テ、聖人ノ書ニアラズトシテヤカズ、漢ノ藝文志ニ論語ヲ経類ニ入レ、孟子ヲ儒家ノ類ニ入ル、漢ノスヱ趙（テウ）岐（キ）コレカ註ヲツクリ、析（ワカ）チ十四篇トス、唐ノ陸善経ガ注ニイタツテ、趙氏カ章（シヤウ）指（シ）ヲ刪リ後七篇トス、宋ノ孫（ソン）奭（セキ）等詔（ミコトノリ）ヲ奉

シテ正義ヲ撰定セリ

掌中十三經附錄

前明ニハシメテ繡梓（シウシ）シタル十三經ノ中ニオイテ、七經ヲヱラミトリテ、欽定（キンテウ）四經三禮義疏ノ書ヲ文淵閣ノ大學士等ニ命シテ、撰定シタマヘル清ノ三帝ノ功マタ偉（オホ）ヒナリトイフベシ、今マタ十三經篇目ノ後、コレラノ書ノ巻目ヲ開列シテ、蒙士ノ觀覽（ラン）ニ便リスルコトシカリ

欽定四經

ガラス使用

周易折中　二十二巻

康熙五十四年三月御序アリ、文淵閣ノ大學士兼吏部尚書李光地ヲ總裁トス

春秋傳說彙纂　三十八巻

康熙六十年六月翰林院侍讀王圖炳ノ序アリ文淵閣ノ大學士兼禮部尚書王掞ヲ總裁トス

詩經傳說彙纂　二十一巻

雍正五年三月翰林院待詔戴臨聖意ヲ述テコレヲ序ス　戶部尚書王鴻緒　都察院左都御史揆叙ノ二人ヲ總裁トス

書經傳說彙纂　十一巻

雍正八年仲春　都察院左副都御史王圖炳勅ヲ奉シテ序ス　武英殿大學士兼工部尚書王頊齡總裁タリ

惣計九十二巻八套

欽定三禮義疏

乾隆十三年十月　經筵講官兵部尚書梁詩正勅ヲ奉シテ序ス
經筵日講起居注鄂爾泰（ガクジタイ）　張廷玉　朱軾（ショク）　甘汝來等四人ヲ總裁トス
周官義疏　四十八巻
儀禮義疏　四十五巻
禮記義疏　八十二巻
總計百七十五巻十二套

十三經篇次總目

周易　一
尚書　三
毛詩　五
周禮　十六
儀禮　十七
禮記　十八
爾雅　二十

春秋左氏傳 廿一
論語 三十
孝經 卅一
春秋公羊傳 卅二
春秋穀梁傳 四十
孟子 四十八

336648

十三經註疏篇目

讃陽後學三谷景從輯

十三經註疏明錢謙益序

○周易

周易正義序 一葉 并論易八段 三葉

魏王弼註繋辭以下晉韓
康伯註唐孔穎達正義

卷一
乾 一葉
坤 二十八、

屯 三十八、
蒙 四十四、
卷二
需 一葉
訟 五、
師 十一、
比 十六、
小畜 二十一、
履 二十八、
泰 三十一、
否 三十六、
同人 四十、
大有 四十五、
謙 四十九、
豫 五十三、
卷三
隨 一葉
蠱 六、
臨 九、
觀 十三、
噬嗑 十七、
賁 二十二、
剝 二十六、
復 三十、
无妄 三十五、
大畜 三十九、
頤 四十四、
大過 四十八、
習坎 五十三、
離 五十八、
卷四
咸 一葉
恒 五、
遯 十、
大莊 十三、

晉 十七、
明夷 二十一、
家人 二十五、
睽 二十八、
蹇 三十四、
解 三十七、
損 四十二、
益 四十七、
巻五
夬 一葉
姤 六、
萃 十、
升 十五、
困 十八、
井 二十四、
革 二十八、
鼎 三十三、

震 三十八、
艮 四十二、
漸 四十七、
歸妹 五十一、
巻六
豐 一葉
旅 六、
巽 十、
兌 十四、
渙 十七、
節 二十一、
中孚 二十四、
小過 二十八、
既濟 三十三、
未濟 三十八、
巻七
繫辭上第七
巻八
繫辭下第八
巻九
說卦第九

序卦第十 十三丶
○尚書
尚書正義序
卷一 孔安國序
卷三 舜典第二 虞書
皐陶謨第四 二十二
卷六 禹貢第一 夏書
五子之歌第三 二十六丶
雜卦第十一 十八丶
（漢孔氏傳 唐孔頴達疏）
卷二 堯典第一
卷四 大禹謨第三
卷五 益稷第五
卷七 甘誓第二
胤征第四 十一丶

卷八 湯征誓第一 商書
湯誥第三 十三丶
太甲上第五 廿三丶
太甲下第七 卅一丶
卷九 般庚上第九
盤庚下第十一 五十丶
說命中第十三 五丶
高宗肜日第十五 十二丶
仲虺之誥第二 七丶
伊訓第四 十七丶
太甲中第六 九八丶
咸有一德第一卅三
般庚中第十 十三丶
卷十 說命上第十二 一葉
說命下第十四 九丶
西伯戡黎第十六 十五丶

微子第十七　十九、
泰誓中第二　九、
牧誓第四　十八、
卷十二　洪範第六
金縢第八　八、
微子之命第十　卌四
酒誥第十二　廿、
卷十五　召誥第十四

卷十一　泰誓第一　周書
泰誓下第三　十五、
武成第五　廿五、
卷十三　旅獒第七
大誥第九　十九、
卷十四　康誥第十一
梓材第十五　卅三、
洛誥第十五　十九、

卷十六　多士第十六
君奭第十八　廿三
多方第二十　六、
卷十八　周官第二十二
顧命第二十四　十九、
畢命第五十六　七、
冏命第廿八　十八、
卷二十　文侯之命第三十

無逸第十七　十二
卷十七　蔡仲之命第十九
立政第二十一
君陳第二十三　十三、
卷十九　康王之誥第廿五
君牙第二十七　十五、
呂刑第二十九　廿二
費誓第卅一　八、

泰誓第卅二　十五、

○毛詩

毛詩正義序
卷一之一　國風　一葉
周南
關雎　十二、
卷耳　九、
螽斯　十六、

漢鄭玄箋
唐孔穎達疏

周南召南譜　四葉
卷一之二　葛覃　一葉
樛木　十四、
桃夭　十九、
卷一之三　兎罝　一葉
漢廣　六、
麟之趾　十三、
召南　十七、
鵲巢　十七、
卷一之四　草蟲　一葉
甘棠　十一、
羔羊　十八、
芣苢　四、
汝墳　十、
采蘩　二十、
采蘋　四、
行露　十三、
殷其靁　廿二、

卷一之五
標有梅 一、
江有汜 九、
何彼襛矣 十四、
卷二之一
邶鄘衛譜 一、
綠衣 十、
日月 十八、
撃鼓 廿三
雄雉 四、
小星 五、
野有死麕 十一、
騶虞 十八、
柏舟 六、
燕燕 十五、
終風 二十、
卷二之二
凱風 一葉
匏有苦葉 七、
谷風 十四、
旄丘 廿三、
泉水 一七、
北風 十五、
新臺 二十、
卷三之一
鄘
牆有茨 四、
桑中 十三、
式微 二十二、
卷二之三
簡兮 一葉
北門 十二、
靜女 十六、
二子乗舟 廿二、
柏舟 一、
君子偕老 五、
鶉之奔奔 十五、

定之方中 十六、
相鼠 三、
載馳 九、
卷三之下
衛
考槃 二十、
卷三之三
氓 一葉
芄蘭 十一、
伯兮 十六、

卷三之上
蝃蝀 一葉
干旄 四、
淇奥 十五、
碩人 廿一、
竹竿 十、
河廣 十四、
有狐 二十、

木瓜 二十一、
黍離 四、
君子陽陽 十、
中谷有蓷 十五、
葛藟 十九、
大車 廿二、
卷四之二
鄭譜 一葉
將仲子 八、

卷四之一
王城譜 一葉
君子于役 九、
揚之水 十二、
兎爰 十六、
采葛 廿一、
丘中有麻 廿六、
緇衣 五、
叔于田 十一、

大叔于田十二、
卷四之三 羔裘 一葉
女曰鷄鳴 四、
山有扶蘇 十一、
狡童 十五、
卷四之四 丰 一葉
風雨 六、
揚之水 十、

清人 十六、
遵大路 三、
有女同車 八、
蘀兮 十四、
褰裳 十六、
東門之墠 四、
子衿 七、
出其東門 十一、

野有蔓草 十五、
卷五之一 齊譜 一葉
還 九、
東方之日 十四、
卷五之二 南山 一葉
盧令 十、
載驅 十四、
卷五之三 魏譜 一葉

溱洧 十六、
鷄鳴 五、
著 十一、
東方未明 十六、
甫田 八、
敝笱 十二、
猗嗟 十八、
葛屨 二、

汾沮洳　五、
陟岵　十、
伐檀　十二、
巻六之一
唐譜　一葉
山有樞　七、
椒聊　十三、
杕杜　五、
鴇羽　九、

園有桃　七、
十畝之間　十一、
碩鼠　十六、
蟋蟀　四、
揚之水　十、
巻六之二
綢繆　一葉
羔裘　七、
無衣　十一、

有杕之杜　十四、
采苓　十八、
車鄰　五、
小戎　十二、
終南　四、
晨風　九、
渭陽　十四、
巻七之一
陳譜　一葉

葛生　十六、
巻六之三
秦譜　一葉
駟驖　八、
巻六之四
蒹葭　一葉
黄鳥　七、
無衣　十一、
權輿　十五、
宛丘　三、

東門之枌 六、
東門之池 十、
墓門 十四、
月出 十八、
澤陂 廿一、
羔裘 三、
隰有萇楚 十、
卷七之三 曹譜 一葉
衡門 九、
東門之楊 十二、
防有鵲巢 十七、
株林 十九、
卷七之二 檜譜 一葉
素冠 七、
匪風 十二、
蜉蝣 二、
候人 五、
下泉 十二、
卷八之一 豳譜 一葉
卷八之二 鴟鴞 一葉
卷八之三 破斧 一葉
九罭 八、
卷九之一 小雅 一葉
卷九之二 鹿鳴 一葉
鳲鳩 九、
七月 八、
東山 八、
伐柯 三、
狼跋 十一、
小大雅譜 一、
四牡 七、

皇皇者華 十一、

巻九之三

伐木 一葉

采薇 十四、

杕杜 八、

南陔 十四、（以下三篇有其義而其辭亡）

巻十之一

南有嘉魚 一葉

由庚 六、（以下三篇亦有其義而其辭亡）

蓼蕭 七、

常棣 十五、

天保 九、

巻九之四

出車 一葉

魚麗 十一、

白華 同 華黍 同

南山有臺 四、

崇丘 六、由儀 六、

湛露 十二、

彤弓 十六、

巻十之二

六月 一葉

巻十之三

車攻 一葉

巻十一之一

鴻鴈 一葉

沔水 八、

祈父 十四、

黄鳥 廿、

斯干 三、

菁菁者莪 廿一、

采芑 十一、

吉日 十、

庭燎 五、

鶴鳴 十二、

白駒 十七、

巻十一之二

我行其野 一葉

無羊 十六、

巻十二之一
節南山　一葉
正月　十二、
巻十二之二
十月之交　一葉
雨無正　十四、
小旻　廿一、
巻十二之三
小宛　一葉
小弁　五、
巧言　十四、
何人斯　二十、
巷伯　廿七、
巻十三之一
谷風　一葉
蓼莪　四、
大東　八、
四月　二十、
北山　廿七、
無將大車　廿九、
小明　三十一、
巻十三之二
鼓鍾　一葉
楚茨　五、
信南山　廿二、
巻十四之一
甫田　一葉
大田　十七、
巻十四之二
瞻彼洛矣　一葉
裳〻者華　五、
桑扈　九、
鴛鴦　十二、
頍弁　十五、
車舝　十九、
巻十四之三
青蠅　一葉
賓之初筵　二、
巻十五之一
魚藻　一葉
采菽　三、

角弓　十三、
卷十五之二　都人士　一葉
黍苗　十一、
白華　十七、
瓠葉　四、
苕之華　十五、
卷十六之一　大雅　一葉
卷十六之二　大明　一葉　緜　十六、

菀柳　二十、
采緑　八、
隰桑　十五、
卷十五之三　緜蠻　一葉
漸漸之石　八、
何草不黃　十九、
文王　同上
卷十六之三　棫樸　一葉

旱麓　八、
卷十六之四　皇矣　一葉
下武　十、
卷十七之一　生民　一葉
旣醉　十一、
卷十七之三　假樂　一葉
泂酌　廿一、
民勞　十三、

思齊　十五、
卷十六之五　靈臺　一葉
文王有聲　十四、
卷十七之二　行葦　一葉
鳧鷖　二十、
公劉　五、
卷十七之四　卷阿　一葉
板　二十、

ガラス使用

巻十八之一	蕩	一葉		抑	七、
巻十八之二	桑柔	一葉		雲漢	十八、
巻十八之三	崧高	一葉		烝民	十五、
巻十八之四	韓奕	一葉		江漢	十七、
巻十八之五	常武	一葉		瞻卬	十、
	召旻	十九、	巻十九之一	周頌	一葉
	清廟	十、		維天之命	十四、
	維清	十八、		烈文	廿一、

	天作	廿六、	巻十九之二	昊天有成命	一葉
	我將	四、		時邁	七、
	執競	十二、		思文	十五、
	臣工	十八、		噫嘻	廿四、
巻十九之三	振鷺	一葉		豐年	三、
	有瞽	五、		潛	十、
	雝	十二、		載見	十六、
	有客	十九、		武	廿二、

訪落　廿七、
敬之　廿九、
卷十九之四　小毖　一葉
載芟　四、
良耜　十二、
絲衣　十六、
酌　廿一、
桓　廿四、
賚　廿六、
般　廿八、
卷廿之一　魯頌　一葉
駉　二、
有駜　十四、
泮水　十七、
卷廿之二　閟宮　一葉
卷廿之三　商頌譜　一葉
那　五、
烈祖　十二、
玄鳥　十七、
卷廿之四　長發　一葉
殷武　十三、

○周禮（凡如大宰之職小宰之職膳夫皆屬天官冢宰然務記之以分各卷卷後皆例之）

周禮正義序（漢鄭玄註唐賈公彥疏）

卷之一　天官冢宰第一
卷二　太宰之職
卷三　小宰之職
卷四　膳夫
卷五　天官冢宰下
卷六　醢人

卷七　司書
卷九　地官司徒第二
卷十一　小司徒之職
卷十三　牧人
卷十五　質人
卷十七　春官宗伯第三
卷十九　小宗伯之職
卷廿一　典命

卷八　世婦
卷十　大司徒之職
卷十二　鄉大夫之職
卷十四　均人
卷十六　旅師
卷十八　大宗伯之職
卷廿　鷄人
卷廿二　冢人

卷廿三　樂師
卷廿五　占夢
卷廿七　御史
卷廿九　大司馬之職
卷卅一　夏官司馬下
卷卅三　挍人
卷卅五　小司寇之職
卷卅七　條狼氏

卷廿四　磬師
卷廿六　喪祝
卷廿八　夏官司馬第四
卷三十　小司馬之職
卷卅二　弁師
卷卅四　秋官司寇第五
卷卅六　司刑
卷卅八　司儀

卷卅九 冬官考工記第六
卷四十一 冬官考工記下

○儀禮

註疏序

卷一 士冠禮一
卷三 士相見禮三
卷五 鄉射禮五
卷七 大射儀七
卷卌 輈人
卷卌二 匠人

（漢鄭氏註 唐賈公彥疏）

卷二 士昏禮二
卷四 鄉飲酒禮四
卷六 燕禮六
卷八 聘禮八

卷九 公食大夫禮九
卷十一 喪服十一
卷十三 既夕十三
卷十五 特牲饋食禮十五
卷十七 有司徹十七

○禮記

禮記正義序

卷一 曲禮上一 五葉
卷十 覲禮十
卷十二 士喪禮十二
卷十四 士虞禮十四
卷十六 少牢饋食禮十六

（漢鄭氏註 唐孔穎達疏）

卷二 曲禮上

卷三 曲禮上
卷五 曲禮下
卷七 檀弓上
卷九 檀弓下 四
卷十一 王制 五
卷十三 王制
卷十五 月令
卷十七 月令

卷四 曲禮下 二
卷六 檀弓上 三
卷八 檀弓上
卷十 檀弓下
卷十二 王制
卷十四 月令 六
卷十六 月令
卷十八 曾子問 七

卷十九 曾子問
卷廿一 礼運 九
卷廿三 禮器 十
卷廿五 郊特牲 十一
卷廿七 内則 十二
卷廿九 玉藻 十三
卷卅一 明堂位 十四
卷卅三 喪服小記

卷二十 文王世子 八
卷廿二 禮運
卷廿四 礼器
卷廿六 郊特牲
卷廿八 内則
卷卅 玉藻
卷卅二 喪服小記 十五
卷卅四 大傳 十六

卷卅五 少儀 十七
卷卅七 樂記 十九
卷卅九 樂記
卷卌一 雜記上
卷卌三 雜記下
卷卌五 喪大記
卷卌七 祭義 廿四
卷卌九 祭統 廿五
卷卅六 學記 十八
卷卅八 樂記
卷卌 雜記上 廿
卷卌二 雜記下 廿一
卷卌四 喪大記 廿二
卷卌六 祭法 廿三
卷卌八 祭義
卷五十 經解 廿六
哀公問 廿七 八葉
卷五十一 孔子閒居 廿九
卷五十二 中庸 卅一
卷五十四 表記 卅二
卷五十六 奔喪 卅四 問喪 卅五 十八
問傳 卅七 十二、
深衣 卅九 六、
卷五十九 儒行 卌一
仲尼燕居 廿八 十九、
坊記 卅 十、
卷五十三 中庸
卷五十五 緇衣 卅三
卷五十七 服問 卅六
卷五十八 三年問 卅八
投壺 卌 十二、
卷六十 大學 卌二

昏義崇禎板訛作昏禮

卷六十一 冠義 四十三
鄉飲酒 四十五 十五、
燕義 四十七 十九、
喪服四制 四十九 十四、

○爾雅

爾雅註疏序
卷一 爾雅序
卷二 釋言
昏義 四十四 四、
卷六十二 射義 四十六 十二、
卷六十三 聘義 四十八
（晉郭璞註 宋邢昺疏）
釋古 六、
卷三 釋訓
卷四 釋宮
卷五 釋樂
卷七 釋山
卷八 釋艸
釋蟲 十四、
釋鳥 十一、
釋畜 十二、
卷六 釋地 釋丘 十二、
釋水
卷九 釋木
卷十 釋魚
卷十一 釋獸

○春秋左氏傳

春秋正義序

後序
卷一 春秋序 一葉
（晉杜氏註　唐孔穎達疏）
卷二 春秋經傳集解 隱第一
傳 二、
經元年 七、
二年 卅六、
卷三 三年 一葉
四年 十六、
五年 廿三、
卷四 六年 一葉
七年 五、
八年 九、
九年 十九、
十年 廿一、
十一年 廿五、
卷五 桓公第二 一葉
經元年 同上、
二年 四、
卷六 三年 一葉
四年 七、
五年 九、
六年 廿、
卷七 七年 一葉
八年 三、
九年 五、
十年 八、
十一年 十、
十二年 十五、
十三年 十八、

十四年　廿二、
十六年　廿八、
十八年　卅四、
卷八
莊公第三　一葉
二年　六、
四年　十、
六年　十五、
八年　二十、

十五年　廿四、
十七年　卅一、
經元年　同上
三年　八、
五年　十四、
七年　十八、
九年　廿四、

十年　廿六、
十二年　五、
十四年　八、
十六年　十三、
十八年　十九、
二十年　廿五、
二十二年　廿八、
二十四年　三、

卷九
十一年　一葉
十三年　八、
十五年　十三、
十七年　十七、
十九年　廿一、
二十一年　廿六、
卷十
二十三年　一葉
二十五年　七、

二十六年 十二、	二十七年 十三、
二十八年 十五、	二十九年 廿、
三十年 廿四、	三十一年 廿六、
三十二年 廿七、	
卷十一 閔公第四 一葉	經元年 同上
二年 六、	
卷十二 僖公第五 一葉	經元年 同上
二年 六、	三年 十、

四年 十二、	五年 廿二、
卷十三 六年 一葉	七年 三、
八年 六、	九年 十、
十年 十九、	十一年 廿三、
十二年 廿四、	十三年 廿六、
十四年 廿八、	**卷十四** 十五年 一葉
十六年 十八、	十七年 廿三、
十八年 廿五、	十九年 廿七、

ガラス使用

二十年　卅二、
卷十五
二十二年　一葉
二十四年　十七、
二十六年　七、
二十八年　十七、
三十年　四、
三十二年　十三、
卷十八
文公第六　一葉

二十一年　卅四、
二十三年　八、
卷十六
二十五年　一葉
二十七年　十一、
卷十七
二十九年　一葉
三十一年　九、
三十三年　十六、
經元年　同上

二年　十、
四年　二十五、
六年　四、
八年　卅三、
十年　卅一、
十二年　五、
十四年　十七、
卷二十
十六年　一葉

三年　卅一、
卷十九上
五年　一葉
七年　十五、
九年　卅六、
卷十九下
十一年　一葉
十三年　十一、
十五年　卅四、
十七年　八

十八年　十三、

巻二十一

宣公第七　一葉

二年　七、

四年　卅三、

六年　之、

八年　七、

十年　二十五、

巻二十二

十二年　一葉

經元年

三年　十八、

巻二十三

五年　一葉

七年　五、

九年　十二、

十一年　十九

巻二十四

十三年　一葉

十四年　二、

十六年　十七、

十八年　二十四、

巻二十五

成公第八　一葉

二年　四、

四年　八、

六年　十三、

八年　卅三、

十五年　七、

十七年　二十八、

經元年　同上

巻二十六

三年　一葉

五年　十六、

七年　十九、

九年　卅一、

十年　卅七、
十二年　五、
十四年　廿二、
卷二十八
十六年　一葉
十八年　卅四、
卷二十九
襄公第九　一葉
二年　五、
四年　十九、
卷二十七
十一年　一葉
十三年　十一、
十五年　廿六、
十七年　廿四、
經元年　同上
三年　十一、
卷三十
五年　一葉
六年　七、
八年　十七、
卷三十一
十年　一葉
十二年　三十、
十四年　九、
卷三十三
十六年　一葉
十八年　十三、
二十年　十一、
七年　十、
九年　廿三、
十一年　十八、
卷三十二
十三年　一葉
十五年　廿九、
十七年　七、
卷三十四
十九年　一葉
二十一年　十五、

巻三十五	二十二年	一葉
	二十四年	廿七、
巻三十七	二十六年	一葉
	二十八年	廿二、
巻四十	三十年	一葉
巻四十一	昭公第十一	一葉
巻四十二	二年	二葉
	四年	廿二、

	二十三年	八、
巻三十六	二十五年	一葉
巻三十八	二十七年	一葉
巻三十九	二十九年	一葉
	三十一年	十六、
	經元年	同上
	三年	八、
巻四十三	五年	一葉

	六年	十九、
	八年	廿五、
	十年	十三、
	十二年	卅一、
巻四十七	十四年	一葉
	十六年	十七、
	十八年	十六、
巻四十九	二十年	一葉

巻四十四	七年	一葉
巻四十五	九年	一葉
	十一年	廿一、
巻四十六	十三年	一葉
	十五年	八、
巻四十八	十七年	一葉
	十九年	廿七、
巻五十	二十一年	一葉

二十二年 十二、
卷五十一 二十四年 一葉
卷五十二 二十六年 一葉
二十八年 卅八、
三十年 十六、
卷五十四 定公第十一 一葉
二年 八、
四年 十三、

二十三年 卅二、
二十五年 五、
二十七年 十七、
卷五十三 二十九年 一葉
三十一年 卅二、
經元年 同上
三年 十、
卷五十五 五年 一葉

六年 六、
八年 十三、
卷五十六 十年 一葉
十二年 十一、
十四年 十八、
卷五十七 哀公第十二
二年 十、
四年 卅五、

七年 十一、
九年 二十四、
十一年 十、
十三年 十三、
十五年 卅四、
經元年
三年 二十、
五年 卅九、

巻五十八 六年 一葉
七年 八、
八年 十四、
九年 二十、
十年 廿四、
十一年 卅六、
巻五十九 十二年 一葉
十三年 七、
十四年 十四、
十五年 卅六、
巻六十 十六年 一葉
十七年 九、
十八年 十六、
十九年 十七、
二十年 十八、
二十一年 二十、
二十二年 廿一、
二十三年 二十一、
二十四年 廿三、
二十五年 廿四、
二十六年 二十八、
二十七年 三十二、

○論語

註疏解經序 （魏何晏集解 宋邢昺疏）
序解
巻一 學而
巻二 爲政
巻三 八佾
巻四 里仁

卷五 公冶長
卷七 述而
卷九 子罕
卷十一 先進
卷十三 子路
卷十五 衛靈公
卷十七 陽化
卷十九 子張
卷六 雍也
卷八 泰伯
卷十 郷黨
卷十二 顔淵
卷十四 憲問
卷十六 季氏
卷十八 微子
卷二十 堯曰

○孝經

孝經註疏序
孝經序
卷一 開宗明義章
卷二 諸侯章
士章 六、
三才章 四、
卷五 聖治章
孝經正義御制序并
宋邢昺較
天子章 三、
卿大夫章 五、
卷三 庶人章
卷四 孝治章
卷六 紀孝行章

卷七　五刑章　三、
廣要道章　五、
廣至德章
廣揚名章　二、
諫諍章　三、
卷八　感應章
事君章　四、
卷九　喪心章

○春秋公羊傳

漢何休序
漢何休學
卷一　隱公第一　一葉
經元年　六、
卷二　二年　一葉
三年　九、
四年　十七、
卷三　五年　一葉
六年　九、
七年　十二、
八年　十六、
九年　九一、
十年　廿二、
十一年　廿五、
卷四　桓公第二　一葉
經元年
二年　五、
三年　十三、
四年　十六、
五年　二十、
六年　廿五、
卷五　七年　一葉

ガラス使用

八年 二、
九年 七、
十年 九、
十一年 十一、
十二年 十七、
十三年 十八、
十四年 廿、
十五年 廿二、
十六年 廿五、
十七年 廿七、
十八年 廿八、
巻六
莊公第三 一葉
經元年 同上
二年 九、
三年 十、
四年 十四、
五年 廿、
六年 廿一、
七年 廿七、
巻七
八年 一葉
九年 四、
十年 十、
十一年 十六、
十二年 十七、
十三年 廿一、
十四年 廿四、
十五年 廿五、
十六年 廿五、
十七年 廿六、
巻八
十八年 一葉
十九年 二、

二十年　四、
二十二年　六、
二十四年　十三、
二十六年　廿二、
卷九　二十八年　一葉
三十年　五、
三十二年　九、

二十一年　五、
二十三年　十一、
二十五年　十九、
二十七年　廿三、
二十九年　四、
三十一年　七、

閔公第四　十六、
二年　二十、
卷十　僖公第五　一葉
二年　九、
四年　十六、
六年　廿六、
卷十一　八年　一葉
十年　七、

經元年
經元年
三年　十四、
五年　廿二、
七年　廿七、
九年　三、
十一年　十一、

十二年　十一、
十四年　十二、
十六年　十八、
十八年　廿三、
二十年　廿八、
卷十二
廿二年　一葉
廿四年　四、
廿六年　八、

十三年　十二、
十五年　十五、
十七年　廿二、
十九年　廿五、
廿一年　三十、
廿三年　二、
廿五年　五、
廿七年　十二、

廿八年　十三、
三十年　廿五、
卅二年　卅二、
卷十三
文公第七　一葉
二年　四、
四年　十四、
六年　十六、
八年　廿二、

廿九年　廿四
卅一年　廿七、
卅三年　卅三、
經元年　同上
三年　十一、
五年　十五、
七年　十八
九年　廿四、

巻十四 十年 一葉	十一年 同上
十二年 四、	十三年 七、
十四年 十一、	十五年 十七、
十六年 廿一、	十七年 廿四、
十八年 廿四、	
巻十五 宣公第八 一葉	經元年 同上
二年 八、	三年 九、
四年 十二、	五年 十三、
六年 十四、	七年 廿一、
八年 廿一、	九年 廿九、
巻十六 十年 一葉	十一年 四、
十二年 七、	十三年 十四、
十四年 十四、	十五年 十四、
十六年 廿五、	十七年 廿七、
十八年 廿九、	
巻十七 成公第八 一葉	經元年 同上

二年 三、
四年 十四、
六年 十七、
八年 二十、
十年 廿八、
十二年 一、
十四年 三、
十六年 十一、

三年 十、
五年 十五、
七年 十九、
九年 廿五、
卷十八
十一年 一葉
十三年 二、
十五年 四、
十七年 十八、

十八年 二十一、
卷十九
襄公第九 一葉
二年 四、
四年 九、
六年 十三、
八年 十七、
十年 廿一、

經元年 一、
三年 六、
五年 十、
七年 十五、
九年 十九、
十一年 廿四、

巻廿
十二年　一葉
十四年　四、
十六年　九、
十八年　十三、
二十年　十七、
廿二年　十九、
廿四年　廿三、
廿六年　四、

十三年　四、
十五年　六、
十七年　十二、
十九年　十三、
廿一年　十八、
廿三年　廿、
巻廿一
廿五年　一葉
廿七年　六、

廿八年　十七、
三十年　十七、
巻廿二
昭公第十　一葉
二年　八、
四年　九、
六年　十六、
八年　十九、
十年　廿二、

廿九年　十六、
卅一年　廿二、
經元年　一、
三年　八、
五年　十二、
七年　十七、
九年　二十、
十一年　廿三、

ガラス使用

十二年　廿六、
十四年　七、
十六年　十、
十八年　十四、
二十年　十七、
廿二年　廿一、
廿四年　六、
廿六年　十六、

巻廿三
十三年　一葉
十五年　九、
十七年　十一、
十九年　十九、
廿一年　廿、
巻廿四
廿三年　一葉
廿五年　七、
廿七年　十九、

廿八年　廿一、
三十年　廿三、
卅二年　卅、
巻廿五
定公第十一　一葉
二年　十一、
四年　十四、
巻廿六
六年　一葉
八年　三、

廿九年　廿一、
卅一年　廿三、
經元年　一、
三年　十三、
五年　廿五、
七年　二、
九年　九、

十年 十一、
十二年 十五、
十四年 十九、
卷廿七 哀公第十二 一葉
二年 二、
四年 九、
六年 十四、
八年 廿、

十一年 十四、
十三年 十八、
十五年 廿四、
經元年 一、
三年 五、
五年 十三、
七年 十九、
九年 廿三、

十年 廿四、
十二年 二、
十四年 十、

○春秋穀梁傳

穀梁序

卷一 隱公第一 一葉
二年 十、
卷二 四年 一葉

卷廿八 十一年 一葉
十三年 四、

晋范甯集解
唐楊士勛疏

經元年 一、
三年 十六、
五年 四、

六年 八、
七年 九、
八年 十二、
九年 十五、
十年 十七
十一年 十九、

巻三

桓公第二 一葉
經元年 一、
二年 四、
三年 九、
四年 十一、
五年 十三、
六年 十六、
七年 十七、

巻四

八年 一葉
九年 四、

十年 五、
十一年 六、
十二年 八、
十三年 九、
十四年 十、
十五年 十四、
十六年 十六、
十七年 十六、
十八年 十七、

巻五

莊公第三 一葉
經元年 一、
二年 六、
三年 七、
四年 十一、
五年 十三、

六年	十四、	七年	十五、
八年	十七、	九年	十九、
十年	廿二、	十一年	廿四、
十二年	廿四、	十三年	廿五、
十四年	廿七、	十五年	廿七、
十六年	廿八、	十七年	廿九、
十八年	卅、	卷六 十九年	一葉
二十年	二、	廿一年	二、
廿二年	三、	廿三年	九、
廿四年	八、	廿五年	十一、
廿六年	十三、	廿七年	十五、
廿八年	十七、	廿九年	廿、
閔公第四	廿六、	經元年	同上
二年	廿八、		
卷七 僖公第五	一葉	經元年	一、
二年（崇禎版訛作三年）	五、	三年	八、

四年　十、
卷八
六年　一葉
八年　二、
十年　九、
十二年　十三、
十四年　十四、
十六年　十九、
十八年　廿三、
五年　十六、
七年　二、
九年　五、
十一年　十一、
十三年　十四、
十五年　十六、
十七年　廿二、
卷九
十九年　一葉
二十年　二、
廿二年　九、
廿四年　九、
廿六年　十一、
廿八年　十五、
三十年　二十、
卅二年　廿四、
卷十
文公第六　一葉
廿一年　三、
廿三年　七、
廿五年　十、
廿七年　十四、
廿九年　十九、
卅一年　廿二、
卅三年　廿五、
經元年　一、

ガラス使用

二年 三、
四年 九、
六年 十二、
八年 十七、
十年 三、
十二年 五、
十四年 十、
十六年 十五、
三年 四、
五年 十、
七年 十五、
卷十一
九年 一葉
十一年 四、
十三年 八、
十五年 十三、
十七年 十七、

十八年 十八、
卷十二
宣公第七 一葉
二年 四、
四年 八、
六年 十、
八年 十二、
十年 十六、
十二年 二十、
經元年 一、
三年 六、
五年 九、
七年 十、
九年 十四、
十一年 十九、
十三年 廿二、

十四年　九二、
十六年　九五、
十八年　九七、
巻十三
成公第八　一葉
二年　四、
四年　十、
六年　十三、
八年　十六、
十五年　九二、
十七年　九六、
經元年　一、
三年　八、
五年　十一、
七年　十四、
巻十四
九年　一葉
十年　四、
十二年　六、
十四年　八、
十六年　十二、
十八年　十九、
巻十五
襄公第九　一葉
二年　二、
四年　五、
十一年　五、
十三年　七、
十五年　十、
十七年　十六、
經元年　一、
三年　四、
五年　六、

ガラス使用

六年 八、
八年 十一、
十年 十三、
十二年 十八、
十四年 十九、
巻十六
十六年 一葉
十八年 二、
二十年 五、

七年 九、
九年 十二、
十一年 十六、
十三年 十九、
十五年 一、
十七年 一、
十九年 三、
廿一年 六、

廿二年 七、
廿四年 九、
廿六年 十一、
廿八年 十六、
三十年 十八、
巻十七
昭公第十 一葉
二年 二、
四年 四、

廿三年 七、
廿五年 十、
廿七年 十四、
廿九年 十六、
卅一年 廿二、
經元年 一、
三年 三、
五年 六、

六年　七、
八年　八、
十年　十三、
十二年　十七、
卷廿八
十四年　一葉
十六年　二、
十八年　四、
二十年　六、

七年　七、
九年　十一、
十一年　十三、
十三年　十九、
十五年　二、
十七年　三、
十九年　四、
廿一年　七、

廿二年　八、
廿四年　十二、
廿六年　十五、
廿八年　十九、
三十年　十九、
三十二年　廿一、
卷十九
定公第十一　一葉
二年　七、

廿三年　九、
廿五年　十三、
廿七年　十六、
廿九年　十八、
卅一年　二十、
經元年　一、
三年　八、

四年　八、

六年　十四、

八年　十五、

十年　十七、

十二年　廿、

十四年　廿二、

卷二十

哀公第十三　一葉

二年　五、

五年　十三、

七年　十四、

九年　十六、

十一年　十八、

十三年　廿一、

十五年　廿四、

經元年　一、

三年　八、

四年　九、

六年　十二、

八年　十四、

十年　十六、

十二年　十七、

十四年　廿二、

○孟子

孟子正義序

五年　十一、

七年　十三、

九年　十五、

十一年　十七、

十三年　二十一、

註疏題辭解
卷一上 梁惠王章句上
卷二上 梁惠王章句下
卷三上 公孫丑章句上
卷四上 公孫丑章句下
卷五上 滕文公章句上
卷六上 滕文公章句下
卷七上 離婁章句上

漢趙氏註
宋孫奭疏

卷一下 梁惠王章句上
卷二下 梁惠王章句下
卷三下 公孫丑章句上
卷四下 公孫丑章句下
卷五下 滕文公章句上
卷六下 滕文公章句下
卷七下 離婁章句上

卷八上 離婁章句下
卷九上 萬章章句上
卷十上 萬章章句下
卷十一上 告子章句上
卷十二上 告子章句下
卷十三上 盡心章句上
卷十四上 盡心章句下

卷八下 離婁章句下
卷九下 萬章章句上
卷十下 萬章章句下
卷十一下 告子章句上
卷十二下 告子章句下
卷十三下 盡心章句上
卷十四下 盡心章句下

ガラス使用

宋所刊次十三經篇目凡一千有餘名裒焚爲帙於乎此經之傳也尚矣然合之稱十三經者始自明中葉矣宋嘗閲哉日東所流華本有萬暦崇禎二本又坊間有稱嘉靖本者皆不標篇目然裒帙浩繁殆不任檢尋之勞乃操觚硯北之餘攟虞山錢氏所挍崇禎善本搨其篇目蕃而成一書置之

十三經　終

案頭以便暫覧焉今茲明和庚寅春二月

為書肆所窺不得已入梓此挙也非初意

剞劂告竣故跋

讃陽後學三谷景从識

遯菴先生著

文家小筌

経書歴史医書等ヨムベキ大意

音註助字ノコ、ロヘ詩作ノ要決其　全一冊

外学問心得トナルヿヲ誌ス

家内年鑑

年代記ハ最世間有来ノ年代

記ト違ヒ家〻ニ所持シテ子孫永　全一冊

代ノ記録トナル重宝ノ書ナリ

日〻ノ要用晴雨亦ハ旅行ノ折

道中ノ事トモナド誌スベクカヽヘテ　全一冊

重宝ノ書ナリ

九月吉旦

大阪本町二丁目堺筋

書城宣英堂　奈良屋長兵衛　板

竹苞楼
京都消毒株式會社 消毒済之証
書價 停 円
備考
書名

案頭以便瞥覽焉今茲明和庚寅春二月
爲書肆所窺不得已入梓此舉也非初意
剞劂告竣故跋

讃陽後學三谷景從識

遯菴先生著

文家小筌

經書歴史医書等ヨムベキ大意音註助字ノコヽロヘ詩作ノ要決其外学問心得トナルヿヲ誌ス　全一冊

家内年鑑

年代記ヨリ最世間有來ノ年代記ト違ヒ家〻ニ所持シテ子孫永代ノ記録トナル重宝ノ書ナリ　全一冊

年中日次記

日〻ノ要用晴雨亦ハ旅行ノ折道中ノ事トモナド誌スベクカマヘテ重宝ノ書ナリ　全一冊

文政三庚辰歳九月吉旦
大阪本町二丁目堺筋
葛城宣英堂　奈良屋長兵衛　板